

平成 29 年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4 年間の目標 (平成 28 年度策定)	1 年間の目標	取組 の 内 容	
			具体的な方策	評価の観点
1 教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ①研究授業や授業見学を更に活性化させ、学校全体としての組織的な授業改善を推進する。 ②基礎学力の充実を図ると同時に、各科やクラス内における学力の偏りに対応する授業等の実践を目指す。 ③カリキュラムや各行事の充実を図りながら、授業時数の確保を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ①効果的な授業改善（ICT活用やアクティブ・ラーニング型を含む）に向けた研修を行い、生徒主体の授業を推進する。 ②基礎学力の定着を図るとともに、思考力・判断力・表現力を養成する授業を実践する。 ③教育課程と年間行事を検討し、授業時数を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校全体の取組みである授業見学で、授業の目標の設定に、ICT活用やアクティブラーニングを積極的に取り入れる。 ②基礎学力テストを1年生に3回実施し、学力向上に活用させる。また、教科を越えて結果を利用できるように工夫する。 ③カリキュラム検討委員会を設置し、教科横断的な授業の設置、授業時数の確保における改善点等を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①授業にICTやアクティブラーニングを取り入れたか。特に授業見学では活用ができたか。 ②基礎的な学力において、生徒の弱点の克服、改善に向けた授業の工夫ができたか。全教科で診断テスト結果の利用ができたか。 ③新しいカリキュラムの方向性が検討できたか。授業時数確保ができたか。
2 生徒指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒が安全・安心に学校生活を送るための指導を充実させ、生徒自らが主体的に行動し、新たな社会的課題に対応できる人材の育成を図る。 ②学校行事や生徒会活動等を充実させ、生徒の主体的な行動の促進を図る。 ④部活動の活性化を通して、問題解決能力を育み責任感や連帯感の涵養を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒一人ひとりの生活指導を徹底し、社会人としてのルール・マナーを定着させる。個々の生徒の状況に応じた組織的な相談体制を構築し、円滑な学校生活を送れるよう支援する。 ②学校行事や生徒会活動等を充実させ、生徒の主体的な行動の促進を図る。 ③部、委員会、農業クラブ、商友会活動の活性化を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①挨拶の励行と服装や頭髪等の身だしなみの徹底、規範意識の向上を正門指導や校内巡回、学年集会を通して図る。携帯電話やSNSの正しい利用マナー徹底を図る。組織的に迅速な生徒指導及び各学年に教育相談コーディネーターを配置して、生徒等の相談体制を充実させる。また、いじめアンケートや事例研究から生徒の困り感を見逃さない。 ②各種行事において、生徒主体の生徒会活動への支援を行い、生徒のコミュニケーション能力と行動力を育む。また教員間での連携と情報共有の充実に努める。 ③顧問総会を定期的に開催し、課題や情報を共有し、部活動の活性化の支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①各種講演会や委員会の実施により、携帯電話や交通安全などのマナー・ルールの徹底を図れたか。学期や行事毎に目標を持った集会を通じ、各学年に応じた指導をすることができたか。生徒指導に対して、組織的に取り組み、かつ生徒個々の状況に合わせた問題解決に取り組むことができたか。多くの目で状況を確認し、事故の未然防止につなげ生徒個々の情報共有ができたか。 ②行事運営において生徒主体の円滑な運営ができたか。生徒、教員間の共通理解を持った活動の支援が実施できたか。 ③顧問総会は定期的に実施できたか。
3 進路指導・支援	<p>専門性の高い知識と技術を育み、社会の動向に柔軟に対応できる産業人として、社会人基礎力を主体的に身につけるとともに、産業構造の変化や社会のニーズ等に対応した人物育成を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①志望大学の新入試システムや就職関連企業等に関する情報等の収集及びデータ化を実施する。 ②生徒一人ひとりの進路実現に向け、外部との連携を強めて連携企画を推進し、産業人としての基礎力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①過去のデータをもとに多様な進路実現に向け、基本的なマナー指導や各種ガイダンスを実施し、生徒が自主的に進路決定できるように指導する。 ②基礎力診断テストや適性検査等のデータを活用するとともに、時機に応じて進路行事を行い、個々に応じた進路指導を行い生徒の進路意識を高める。 ③上級学校や産業界等と連携をとり、インターンシップ・農業体験等への参加を継続的に促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ①データの収集や活用はできたか。 ②進路行事の実施状況は適切で、生徒の進路意識を高めることはできたか。 ③インターンシップ等への参加状況は前年度を上回ったか。
4 地域等との協働	<ul style="list-style-type: none"> ①地域産業界と連携し、個性豊かな人間性や社会性を培うために、農業科・商業科それぞれの高い専門性の知識と技術を活かしつつ「主体性・多様性・協働性」を兼ね備え、社会に貢献することができる生徒の育成を実現していく。 ②社会の動向に柔軟に対応できる産業人の育成に向けた専門教育活動の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①地域産業界との連携を組織的に進め、効果の検証、見直しを行う。 ②外部講師等を積極的に活用し、専門性の向上を図るとともに、教科・学科の枠を超えた教育活動を展開・発展させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①農業3科、総合ビジネス科で地域の企業や団体との連携事業を各科で2事業以上実施し、それぞれの専門性を高める教育活動の展開を深める。 ③農業3科、総合ビジネス科で外部講師による授業を各科で2回以上実施し、将来の進路選択を見据えた学習活動を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①各科で2事業以上実施し、専門性を高める教育活動の展開を深め、産業界に貢献することができるような取組みができたか。 ②各科で外部講師による授業を2回以上実施し、将来の進路選択を見据えた学習活動を展開し、専門教育活動の充実につながられたか。
5 学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ①様々な事故を防ぐため、全職員の組織的な取り組みを進める。 ②災害発生時の体制作りを進める。 ③教育環境の整備を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①各種重要情報の取扱いにおけるマニュアルを見直し、管理の徹底と事故防止を図る。 ②防災備蓄品の整備を実施し、災害発生時の対応について地域との連携を検討する。 ③移転に向け、備品等の整理を行なうとともに、現在の教育環境の整備を行なう。 	<ul style="list-style-type: none"> ①各種重要情報の取扱いマニュアルを見直し。特に電子データの利用マニュアルやフォルダの見直しを行い、啓発のための研修会を行う。また、行政文書の適切な保存と廃棄も徹底する。 ②防災備蓄品の整備・更新を行い、分散備蓄場所の検討を更に進める。地域の災害対策への取組に関する情報を収集し、連携を検討する。 ③移転に向け、備品の整理・管理場所の整備を進め、職員に周知する。また、現在の教室設備・備品、用具の点検・整備を推進する。教室等で利用できるタブレットを整備し、利用啓発のための研修会等を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①マニュアルの見直しはできたか。電子データ文書の適切な保存と廃棄ができたか。研修会は行えたか。 ②防災備蓄品の整備・更新ができたか。分散備蓄の検討が進んだか。地域の災害対策の取組に関する情報を収集できたか。 ③備品の整理状況・管理場所を職員に周知できたか。現在の教室設備・備品、用具の点検・整備を行ったか。タブレットの配置数と授業等での利用頻度は前年を上回ったか。研修会は実施できたか。